南の国のナデシコ税理士

成功へのキセキ

第45回 「未来の扉」～心魂プロジェクトミャンマー公演2回目

「こんなに幸せをもらって、いいのかしら？」

彼らの歌声をずっと、ずっと聴いていたい。

このまま、時間が止まってくれたらいいのに。

それは幸せすぎて、申し訳ないとさえ思えるほど、幸福なひと時でした。

去年に引き続き行った、心魂プロジェクトメンバーをひき連れてのミャンマー公演。心魂プロジェクトとは、元劇団四季や宝塚のミュージカル俳優が中心となって、重病の子どもたちの元に、歌や踊りを届ける活動をしているNPO法人です。

ゴールデンウィークを利用して、私の主宰する戸沢財団がスポンサーとなり、ミナミの国の子ども病院や孤児院、障がい児学校に彼らのパフォーマンスを届ける活動も、今年で2回目となりました。

ショーは普段、男の子たち100人が暮らしている部屋で行いました

思い返せば、去年のミャンマー公演は、本当に大変でした。訪問する先々で、「また来年も来てくださいね」と言われても、心の中で、こんなに大変なことはもう嫌だ!と呟いていたのが、つい昨日のことのようです。

何しろ国立子ども病院で、外国人が歌ったり踊ったりするのは、あちらも初体験。前例のないことはやりたがらないミャンマーのお役人気質に阻まれ、何度も企画書を再提出する羽目に。最上階のホールでの演奏は許可されたものの、そこから一歩も出たらダメ!と、線を引かれる始末です。

訪問先が決まっても、車や通訳、お弁当の手配に始まり、ミナミの国ならではの電源問題も発生。停電がおきてもいいように、ジェネレーターを手配するのですが、私の本業は税理士なので（←当たり前ですが。笑）、アンペアがどうのとか聞かれても答えられないし、そもそもミャンマーのどこに問い合わせれば、イベントのための電源を確保できるのかさえ分からないという状況でした。

そうそう、集客のためのチラシ作りも大変でした。日本語と英語とミャンマー語のチラシを6箇所分、作成（はー、書いてるだけで疲れる…）したのですが、チラシのデザインや文章を考えたり、慣れないことばかり…。

それら敵キャラをすべてクリアしての公演だったので、去年は達成感を感じる余裕もありませんでした。

でも、今年は違います。

何といっても、受け入れ体制が180度変化していました。事前の打ち合わせに行くと、去年は名刺交換さえしてくれなかった副医院長が駆け寄ってきてくれて握手。ホールだけでなく、入院病棟で公演してほしいとのリクエストをいただくほど。

また保健省からも、ヤンゴンだけでなく、ミャンマー第2の都市マンダレーの病院に来てほしいと言われ、去年0から1をつくった自分をほめてあげたい気持ちになりました（笑）。

そして冒頭のシーン。

初日に訪問したドリームトレインという孤児院で、子どもたちが御礼にとKiroro（キロロ）の『未来へ』を日本語で歌ってくれたのです。

「今年もまた来てくれてありがとう!!」

子どもたちから感謝の気持ちが伝わってきて、気がついたら、自然に涙が溢れていました。

税理士という、お金にかかわる超現実的な日々の仕事。お客さまの仕事がうまくいかないと、一緒に辛い気持ちになったり。計算ミスを見つけて、慌ててお客さまのところに飛んでいって謝ったり。スタッフが急に辞めてしまって、その穴埋めに奔走したり。

税理士は天職だと思っているし、好きでたまらない仕事なのだけど、きっと自分では気がつかないうちに、私の心はストレスに浸食されていたのかもしれません。

それは、知らないうちに澱んでいた汚れを洗い流し、すべてのかすり傷をも癒してくれる天使の歌声でした。

私はこんなに幸せでいいんだろうか？

◆筆者 原 尚美（はら なおみ）プロフィール

税理士。東京外国語大学卒業。TACの全日本答練（現：全国公開模試）「財務諸表論」「法人税法」で全国1位の成績を収め、税理士試験に合格。直後に出産。育児と両立させるため、1日3時間だけの会計事務所からスタートし、現在は全員女性のスタッフ約30名の規模にまで成長。一部上場企業の子会社やグローバル企業の日本子会社などをクライアントにもつ。ミャンマーに会計サービスの会社を設立し、海外進出支援にも力を入れている。著書に『小さな会社のための総務・経理の仕事がわかる本』『小さな起業のファイナンス』（いずれもソーテック社）、『51の質問に答えるだけですぐできる「事業計画書」のつくり方（日本実業出版社）』『トコトンわかる株式会社のつくり方（新星出版社）』『世界一ラクにできる確定申告（技術評論社）』『一生食っていくための士業の営業術（中経出版）』など。その他、「経理ウーマン」「デイの経営と運営」など雑誌への寄稿や、商工会議所、中小企業投資育成株式会社、日本政策金融公庫などでの、セミナー実績も多数。

歌の他にダンスも披露してくれました

戸沢財団は、クライアントだった戸沢暢美さんから、「その後」のことを託されてつくった財団です。彼女の願いは、ただ一つ。遺ったお金は子どもたちのために使ってほしいということだけでした。それ以外、財団のお金をどう使うかは、すべて私の裁量に託されたのです。

生きている人との約束は、破っても、謝れば許してくれる可能性があります。でも、死んでしまった人との約束は、破ったら取り返しがつかない。私は彼女が亡くなった後になって、交わした約束の重みに愕然となりました。

自慢じゃないけど、それまでの私の人生、ボランティアのボの字もかすったことは、ありません。どうすればボランティアというものができるのか、親を失くした子どもを支援するといっても、一体どうすればそんな事ができるのか、まったく五里霧中という有様でした。

最初は、ともかくネットサーフィンをして、子どもを対象に活動しているNPOを探すところからスタートです。東日本大震災の後だったこともあり、たくさんのNPO法人や団体がヒットしましたが、会いにいくと、集金目当ての団体だったり、夢を語るだけのナンチャッテおじさんやおばさんだったりして、ガッカリする事の方が多い毎日でした。

そうこうしているうちに、この人ならと信じて支援を決めた、とある有名な団体から騙されるにいたって、他人に頼っていてはダメだ、自分たちが主体となって活動するしかないという結論になるまでに、3年。

覚悟を決めて試行錯誤の結果、月に一度は、児童養護施設の子どもたちを連れて八ヶ岳にキャンプに行ったり、施設出身の子どもと食事会をしたり、進学や就職の相談にのったりと、今では財団の活動もすっかり軌道に乗ってきました。

調子にのって（笑）、ついにはミャンマーの孤児院や国立子ども病院で、ミュージカルショーを開催したりするまでになったというわけです。

彼らの天使の歌声を聴きながら、自然に感じたこと。それは、自分の力だけで、こんなに幸せな体験ができているわけではないということです。

戸沢暢美さんというクライアントに出会ったこと。

彼女が自分の遺産を、私に託してくれたこと。

心魂プロジェクトという、元劇団四季の素晴らしいスキルを持ったメンバーと出会ったこと。

それらすべての偶然に感謝しながら、ミャンマーツアーは始まりました。というわけで、ツアーの詳しい内容は、次の号に書かせていただきますね。

ヤンゴン子ども病院で、お礼の盾をもらいました

マイナンバー対応

最新 小さな会社の総務・経理の仕事がわかる本

原 尚美 著、吉田 秀子 著（ソーテック社）　1,400円+税

総務・経理の仕事…すべてをできるようになるには、とても時間がかかります。
大きな会社に入社しても、小さな会社に入社しても、たくさんのことを覚えなくてはなりません。
そんなとき一番困るのが、必要書類がわからない、書類の書き方がわからないといったことです。
本書は、必要な書類とその書類の書き方の注意点のサンプルをできる限り掲載しています。
総務・経理のしごとに携わるすべての人に読んで、参考にして頂きたい本です。